

天災は忘れた頃来る

中谷宇吉郎

青空文庫

今日は二百二十日だが、九月一日の関東大震災記念日や、二百十日から、この日にかけては、寅彦先生とらひこの名言「天災は忘れた頃来る」という言葉が、いくつかの新聞に必ず引用されることになっている。

ところで、よく聞かれるのであるが、この言葉は、先生のどの随筆にあるのが、問題になっている。寅彦のファンは日本中にたくさんあって、先生の全集は隅すみから隅まで、何回となく繰り返し読んでという熱心な人がよくある。そういう人から、どうもおかしいが、この言葉は、どこにも見当らない。一体どこにあるのか、という質問をよく受ける。

実はこの言葉は、先生の書かれたものの中には、ないのである。しかし話の間には、しばしば出た言葉で、かつ先生の代表的な随筆の一つとされている「天災と国防」の中には、これと全く同じことが、少しちがった表現で出ている。

それで私も、この言葉が先生の書かれたものの中にあるものと思い込んでいた。もう十五年ばかりも昔の話になるが、たしか東京日日新聞だったかに頼まれて「天災」という短文を書いたことがある。その文章の中で、私はこの言葉を引用(?)して「天災は忘れた頃来る」という寅彦先生の言葉は、まさに千古の名言であると書いておいた。

ところが、この言葉が、その後方々で引用されるようになり、とうとう朝日新聞が、戦争中に、一日一訓というようなものを編集した時、九月一日の分に、この言葉が採用されることになった。

正月元旦の「日本国は神国なり」から始まって、三百六十五日分、毎日その日に何かいわれのある言葉を、集めたものである。そしてそれには、いろいろな人が、出所と解説とを書くことになっていた。私は九月一日「天災は忘れた頃来る」の解説を頼まれ、まず出所を明らかに思つて「天災と国防」を読み返してみたが、ない。慌あわてて天災に係りのありそうな随筆を、片っ端から探して見たが、どうしても見当たらない。

大いに困つたが、この言葉の方は、すでに慎重な会議をなんべんも開いて、採用に決定していたので、止やめるわけには行かない。それで「天災と国防」の中にこれと全く同じことが書いてあるという理由で、解説を適当に書いて、勘弁してもらつた。

もともとこの言葉は、書かれたものには残っていないが、寅彦の言葉にはちがいないのであるから、別に嘘うそをいつたわけではない。面白いことには、坪井忠二つぽいちゆうじ博士なども、初めはこの言葉が、寅彦の随筆の中にあるものと思ひ込んでいたそうである。それでこれは、先生がペンを使わないで書かれた文字であるともいえる。

（昭和三十年九月十一日）

青空文庫情報

底本：「中谷宇吉郎随筆集」岩波文庫、岩波書店

1988（昭和63）年9月16日第1刷発行

2011（平成23）年1月6日第26刷発行

底本の親本：「百日物語」文藝春秋新社

1956（昭和31）年

初出：「西日本新聞」

1955（昭和30）年9月11日

入力：門田裕志

校正：川山隆

2012年12月14日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

天災は忘れた頃来る

中谷宇吉郎

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>